

2024年度 地域経済活性化委員会

委員長 長沼 郁生

1. 運営方針

昨今、消費行動は時代の変遷やSNSの普及によって、物質的な豊かさを得るモノ消費から、社会・文化的に価値のある内容を重要視したイミ消費へと変化しています。災害を受けた地域の復興に向けて、現地の商品購入やクラウドファンディングによる応援といった消費行動や、環境保全やSDGsに関連した無農薬・無化調商品の購入による健康維持といったイミを持つ消費行動が、企業や店舗への売り上げの貢献だけではなく、社会貢献に繋がることに、消費者は価値を見出しているという現状があります。

イミ消費は、若い世代から親世代やシニア世代にも影響を与え、その消費動機はSNS関連が極めて高い傾向にあります。熊谷には多様な個性・文化・産業といった、他地域に誇れる地域資源が多く存在しており、その地域資源は季節毎に様々な表情を見せてくれます。一方で、地域資源が存在し、地域内外から人が訪れているにもかかわらず、消費に繋がっていない現状があります。この多様な地域資源と消費を行うイミを絡め、SNSで話題になる発信をしていくことで様々な消費者のニーズに対応する事が可能であると考えます。様々な話題を知ることで消費意欲が高まり、消費を行うことで、地域経済が活性化します。SNSを通じた情報発信に力を入れている企業や店舗が、消費を行う際に人々から選ばれており、熊谷の消費に関する話題を広く伝え、知っていただくことは、人々の消費意欲を高めて消費行動に繋がるチャンスであると考えます。

そこで、本年度地域経済活性化委員会は「わくわくする消費ができるまち熊谷」をテーマに、熊谷市内での消費を促していく運動を行ってまいります。季節毎に見せてくれる熊谷の地域資源や、楽しいと感じるまちの雰囲気を知ること、熊谷への特別感や期待が湧きます。そして、熊谷に来て、多くの特別感や芽生えた昂る気持ちが熊谷での消費意欲を高め、期待を感じた人々が消費を行うことで、熊谷の活性化に繋がると考えます。熊谷を良く知っている私たちだからこそ、おもてなしの気持ちを持ちながら伝えることができます。SNSやアプリを活用しながら発信し、実際に熊谷の魅力に触れていただき、魅力に共感した人々が、熊谷市内での消費意欲が高まる事業を実施いたします。

多様な世代がわくわくしながら消費を楽しむ熊谷のまちには、特別感や期待を感じることを目的として、熊谷に来る人々で賑わっています。賑わいを持った熊谷は、他地域に誇れる地域資源の魅力が更に高まり、地域内外の方々が人を連れてきたくなるまちになると考えます。そのような熊谷は愛され選ばれるまちになると確信しております。

2. 事業計画

- (1) 消費動向の現状を分析し、理解していただくことと共に、メンバーに熊谷の魅力を再発掘していただく例会の実施。
- (2) 特別感や期待を抱ける熊谷の魅力や、魅力への共感を生む情報発信と共に、魅力を活かした消費への期待感をくすぐる情報を随時発信する。
- (3) 1年間の運動の成果と課題を検証し、成果を引き継ぐ例会の実施。